

新たな小学校への歴史の継承について

第1回の協議会において、デジタル保存や卒業生への返却等の具体的な手法についてワークショップ形式で議論しました。ご意見を踏まえて学校長と事務局で協議し、継承方法の案を整理しました。

1 第1回ワークショップ及び第2回ワークショップでのご意見

【デジタル保存】

- ・カメラも高性能になっているので、必要だと思う物品を写真に撮り、ハードディスク等で保存。
- ・必要な時に活用できるように、とにかくデータで残す。
- ・写真などで残した際に、説明文がないと背景が分からなくなる。
- ・子どもたちがいない場所の写真ではなくて、いる写真を残したい。

【卒業制作】

- ・希望する人が取りに来れるように、一定期間公開し、取りに来なかったものは処分。
- ・個々への返却は難しい。返却のためのイベントを開催するか。
- ・返却するまでの間の物品の管理や保管場所についても課題がある。
- ・物品を残す際は、基準を決めて残す残さないを決める。
- ・将来の子どもたちにとって必要なものであれば現物を残す。

【校歌について】

- ・歌は新しい学校のホームページなどで聞けるようにする。
- ・「愛の鐘」で流せないか。季節によって、鶴川第二小・鶴川第三小・鶴川第四小を変えられたら良い。
- ・新しくできる学校の予鈴（チャイム）で使えないか。
- ・谷川俊太郎さんや山本直純さんから届いたお手紙は現物として残したい。

【現校舎の記録の残し方】

- ・外観はドローンを飛ばして撮影したい。
- ・鶴川第三小の和室は特徴的なので、一定期間和室を開放する。
- ・工事が始まる前に色々な方に学校を使ってもらおう。
- ・写真を残すだけで充分。
- ・校舎を取り壊す前、取壊し中、取り壊した後の記録を残す。
- ・校舎にまつわるエピソードを落語のような形などで残す。

【その他】

- ・学校がこの場所にあったことがわかるようにしてほしい。
- ・子どもたちにも意見を聞いて欲しい。
- ・ミニ博物館のような場所が作れると嬉しい。

2 継承方法（案）について

第1回の協議会でのご意見を踏まえて学校長と事務局で協議し、以下の通り、継承方法の案を整理しました。

A デジタル保存（校舎・制作物・記念碑など）

校舎や物品などをデジタル技術を活用して、閉校後も当時の様子がわかるように保存する。

●仕様（予定）

- ① 校庭や校舎等をVRツアーができる
- ② 学校内を回遊するプロモーション動画を作成する
- ③ 卒業制作などの物品等を写真で保存する
- ④ 学校ホームページから、いつでも閲覧できる

●作業スケジュール

2025年度に教室転用工事が入る鶴川第三小学校については、工事が入る前に作業を実施するため、2024年度中に撮影を実施します。鶴川第四小学校については、取壊しの工事が2026年度から開始するため、2025年度中に撮影を実施します。なお、閉校式典等での公開を予定しています。

2024年度						2025年度				
4~8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	4月	5月	6月	7月	8月~
	鶴川第三小撮影		編集・納品		HP公開	鶴川第四小撮影			編集・納品	

※詳細な日程については各学校と調整のうえで決定します。

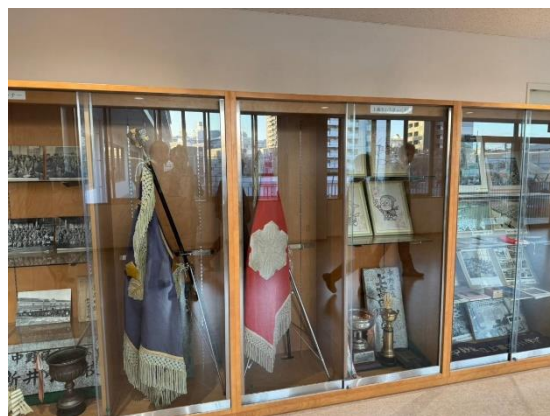
B 卒業生へ返却（卒業制作）

卒業生への返却イベントについての検討を開始します。

- ① どの卒業制作を返却するか調査。
- ② 卒業制作を返却するにあたり、加工が必要か否か。
- ③ 加工が必要な物品については費用がかかるか。また、現実的な費用か。
- ④ 予算をどのように確保するか。

C 設置場所を考慮し移設場所を検討（校歌歌詞額縁・歴史資料等）

学校が歩んできた歴史や、教育財産として残すべきもの等について、学校の判断によって現物を保存します。掲示場所は、施錠された部屋等に保管するのではなく、壁面等のスペースを有効活用し、児童や来校者が常時閲覧可能な状態を目指します。詳細は新校舎の設計を踏まえて判断します。



ショーケースによる展示の事例（中野区立令和小学校）

D 校歌について

両校の校歌については、適切な残し方について検討を進めて参ります。

3 検討スケジュール

今後の検討スケジュールは以下のとおりです。次年度も引き続き、歴史の継承に向けた整理を継続して進めます。

年度 時期	2024年度			2025年度		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
鶴三小	校舎見学会 の実施	卒業制作物 等の整理	卒業制作物等 への対応	継承に向けた準備 (物品の整理等)		
鶴四小			校舎見学会 の実施	卒業制作物 等の整理	卒業制作物等 への対応	